

ビジネス フォーカス

[中古自動車]

[拡大する輸出市場]

度と比べると20・5%の大幅な増加だ。

日本からの中古車は車検制度によつて定期的に点検・整備されている上、走行距離も短く人気が高い。新車と同様に円安も市場拡大の追い風となつている。最大の輸入国はロシアで、以下ミャンマー、アラブ首長国連邦、ニュージーランド、チリと続いている。輸出先は基本的に右ハンドル国が中心となる。

ロシアは左ハンドル国だが、極東地区を走つてゐる車の大部分は、日本からの右ハンドルの中古車が占めている。アラブ首長国連邦は中継国となつており、周辺国やアフリカへ再輸出されている。ミャンマーでは、年式が古く故障が多い車両の入れ替えを狙つて11年に輸入規制が緩和され、日本からの中古車輸入が一気に拡大している。

世界の自動車市場は、新興国が成長を主導する構造となつてゐる。日本の自動車メーカーが今年3月期決算で軒並み好業績となつたのは、消費税増税前の駆け込み需要や円安による輸出の好調と並んで、新興国での市場拡大も要因となつてゐる。

ただ新興国の所得水準では、新車を購入できる層ばかりではなく、中古車の需要も発生する。日本からも多くの中古車が輸出されており、13年度の中古車登録台数は137万台と2年連続で100万台を突破した。前年

の登録台数は95万台で、2009年度は82万台。輸出が一気に拡大している。その日本からの中古車輸出は、海外から物資を運んできた船が、日本国内では価値のつかない車を帰りの便に積み込んだ

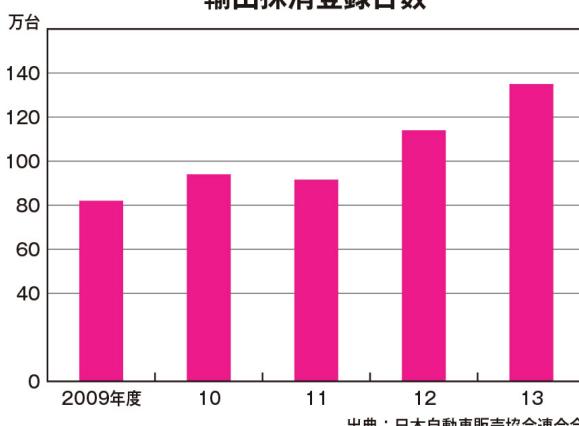
のが始まりとされる。日本で商品価値がない中古車も、世界ではそれを必要とする国が存在しております、現地では重要な交通手段として再利用されている。

低年式車の輸入は環境負荷を増大させると懸念する声が一部にあるが、交通インフラが発達していない国では市民の生活の足となつてゐるケースも多い。

加えて日本からの中古車が普及し、年数が経過するにつれ、補修需要が発生する。新品の交換部品は高価なので、日本から中古部品を輸出するビジネスが広がりをみせている。この日本の中古車や中古部品に対する旺盛な需要を支えているのは、ひとえに日本車の品質への高い評価である。

（インダストリアルテクノロジー
ユニット 自動車産業グループ
長 関口 太二）

輸出抹消登録台数



ので、この分野では絶対的な競争力を有している。

マーケットでも千人当たりの自動車保有台数は7台程度で、まだまだ市場拡大の余地がある。日本からの中古車輸出は、今後も新興国を中心に底堅い需要が続くものと考えられる。

市場拡大の余地がある。日本からの中古車輸出は、今後も新興国を中心底堅い需要が続くものと考えられる。